

# 猿新聞

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## イノシシ対策

イノシシによる農作物被害は昭和50年頃では、生息数も少なく、山間の田や畑を小規模に荒らすにすぎませんでした。

近年、林業は衰退し人々は次第に農業からも離れていき、かつての田畑は放棄され、竹林や藪がひろがっています。山林も荒廃の一路を辿り、ゴミ捨て場となつているところさえあります。

このような場所がイノシシには格好の棲みかとなり山間地域では、平成に入ると個体数も急増し、生息地域は市内全域に広がり、各地で被害が増えはじめました。

昨年は矢川地区でも多くの被害がありました。なかでも畦畔の掘り返し被害が多く経済的にも大きなダメージとなっています。

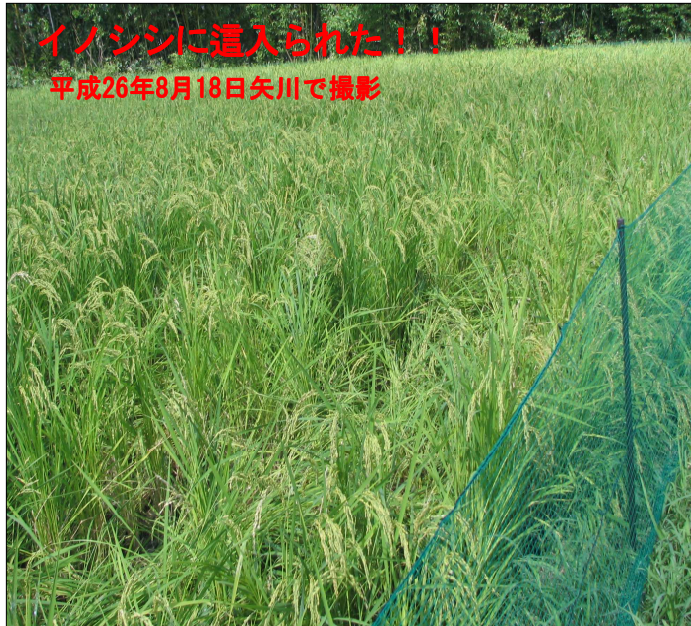
秋はイノシシ被害が最も大きくなる季節です。早めの対策が肝心です。侵入防止柵。

トタン板による柵。トタン板柵は視覚を遮り、圃場の作物を見えなくするといふ効果があり、防除効果が大きいです。

トタンの境目は10〜20センチ重ね合わせ、鉄パイプや鉄筋で挟み込んで固定。トタンと地面の隙間が無いように、凸凹の地形では、トタンを多めに使用して、隙間ができないように設置することが重要です。

ネット柵。ネット柵にも一定の効果がありますが、網はイノシシの視界を遮らないため、圃場の作物が丸見えで網を壊してでも侵入しようとしてくるので、ワイヤーメッシュや金属線入りの丈夫な網を用い、掘り返されないよう接地面を頑

このため、鼻先に触れるように、高さを2段、3段に張るなどの工夫が必要で、周囲の草丈が伸びて電柵に触れてしまうと漏電し効果が無くなります。定期的な見回りや草刈りが必要です。



文に固定する必要があります。電柵。効果が高いといわれていますが、欠点もあります。イノシシは分厚い毛皮に覆われているため、電線が鼻先に触れないとあまり効果がありません。

何れの柵にもいえることですが、柵は設置して完了ではありません。管理をしながら改良を重ねる事が肝要です。

忌避効果  
(匂・音・視覚効果による対策)  
イノシシは警戒心が強く、匂いや音にも敏感です。このため、昔からこれらの習性を利用した様々な対策が行われてきました。

昔から知られている方法としては、  
○人の髪の毛を束ねたものを吊す方法。  
○石けん、線香、コールトールなどの匂いを付ける方法、などがあります。

○携帯ラジオや点滅灯など音や視覚によって恐怖心を与える方法も時には有効です。  
あまりお勧めできませんが、昔はイノシシの活動する夜中に古タイヤを燃やし、臭いで撃退するという方法も講じていました。

忌避効果は、一時的とはいえず一定の効果は昔から認められているもので、ここぞという時に使うのも一つの方法です。

例えば、収穫間際で一番荒らされたくない時に短期集中的に設置するなどの方法が考えられます。

まいます。何週間も同じ所で目撃する場合は、エサ場を見つつけ居ついでしまった可能性もあります。縄張りや認識されないうちに地域ぐるみで追いつ出すことが肝心です。

ハナレザルは必ずしも1頭ではない場合もあります。ハナレ同士が2〜3頭のグループを形成しハナレザルとして単独生活を送ることもあります。

また、「群れザル」が群れから一時的に離れ餌をとりに来るなどの事例もあります。

ハナレザルは交尾期(秋)にはメスザルを求めて群れの周りを群れと一緒に移動し、その群れに合流することもあります。たつた一頭なら、気を許していると、群れを引き連れやってくることも考えられます。

ハナレザルは、神出鬼没で、その移動距離もさまざまですが、一年足らずの間に60kmも移動した例もあり、時として山から10kmも離れた市街地に突如として現れることがあり、特に子供の人身被害が心配されています。

群れ、ハナレを問わず活動は昼間で、全ての時間を食べることに費やします。夜は眠り活動はしません。サルは人と同様に物をつかむことのできる両手に加えて、足でも物をつかむことができ、これが被害対策を複雑にしている大きな要因ともいえます。また、サルは賢くて器用なため、被害対策について、現在のところ決定的な対策は全国的に確

立されています。でも、あきらめない姿勢が大切です。他の鳥獣同様に、考えられることはいろいろと試してみましよう。

各種対策をとつても被害を防げない場合は、有害鳥獣の捕獲が認められますが、有害駆除は最後の手段と考えて下さい。

いことで、不意を突かれた様なかたちです。日頃から「サルは必ず来る！」という心構えと、群れの行動情報を把握し地域で共有することが大切です。

名張農業資源室では、群れの行動情報を毎日発信しています。登録すれば受信できます。

指南員報告  
8月のサルの動向  
A群は、つづじが丘団地の周辺部や農村集落でも家庭菜園等が多く存在する食餌資源の豊富な地区を中心に遊動しています。ある集落では、3日程滞留した所もあり、相当の被害が発生しています。一部で水稲の被害も発生しています。

B群は、食餌資源を求めて広く遊動を繰り返しています。今月は、理由は不明ですが、ほとんどを国道165号線の南側で遊動を繰り返していました。ハナレザルも時々出没していて、特につづじが丘団地に出没が多い。

8月9日  
矢川にB群の大きな群れが、春日神社の森の方からやってくる、山際を西から東に移動し周辺の野菜畑に大きな被害が発生しています。矢川に大きな群れが現れたのは久しぶりです。

群れ、ハナレを問わず活動は昼間で、全ての時間を食べることに費やします。夜は眠り活動はしません。サルは人と同様に物をつかむことのできる両手に加えて、足でも物をつかむことができ、これが被害対策を複雑にしている大きな要因ともいえます。また、サルは賢くて器用なため、被害対策について、現在のところ決定的な対策は全国的に確

立されています。でも、あきらめない姿勢が大切です。他の鳥獣同様に、考えられることはいろいろと試してみましよう。

各種対策をとつても被害を防げない場合は、有害鳥獣の捕獲が認められますが、有害駆除は最後の手段と考えて下さい。

ハナレザルは必ずしも1頭ではない場合もあります。ハナレ同士が2〜3頭のグループを形成しハナレザルとして単独生活を送ることもあります。

また、「群れザル」が群れから一時的に離れ餌をとりに来るなどの事例もあります。

ハナレザルは交尾期(秋)にはメスザルを求めて群れの周りを群れと一緒に移動し、その群れに合流することもあります。たつた一頭なら、気を許していると、群れを引き連れやってくることも考えられます。

ハナレザルは、神出鬼没で、その移動距離もさまざまですが、一年足らずの間に60kmも移動した例もあり、時として山から10kmも離れた市街地に突如として現れることがあり、特に子供の人身被害が心配されています。

群れ、ハナレを問わず活動は昼間で、全ての時間を食べることに費やします。夜は眠り活動はしません。サルは人と同様に物をつかむことのできる両手に加えて、足でも物をつかむことができ、これが被害対策を複雑にしている大きな要因ともいえます。また、サルは賢くて器用なため、被害対策について、現在のところ決定的な対策は全国的に確

## ハナレザル

最近、ハナレザルの出没情報をよく聞きます。ハナレザルは群れのサルのように山中で生活しているのとは違い、どこにでも出没するのが特徴で、市街地など普段見かけない場所にも出没することがあります。居心地が悪ければ、しばらく居るといなくなり居ますが居心地が良いと居着いてしま

### サルの出没状況

名張A・B群

8月9日  
矢川にB群の大きな群れが、春日神社の森の方からやってくる、山際を西から東に移動し周辺の野菜畑に大きな被害が発生しています。矢川に大きな群れが現れたのは久しぶりです。

まいます。何週間も同じ所で目撃する場合は、エサ場を見つつけ居ついでしまった可能性もあります。縄張りや認識されないうちに地域ぐるみで追いつ出すことが肝心です。

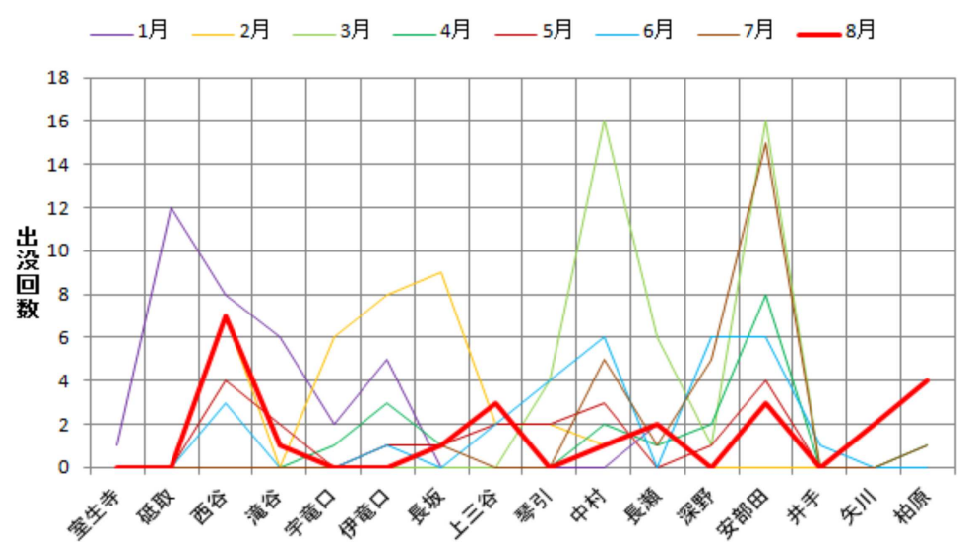
### 獣害に適応した栽培形態

現在の栽培形態は、野生獣の被害がそれほど問題とならなかった時代に構築されました。これだけ野生鳥獣が問題となりながら、あらゆる圃場で、野生鳥獣への配慮を欠いた昔のままの栽培形態で農業を続けること事態が、鳥獣害が増加する最大の原因だという認識が重要です。

集落の多くの圃場が被害を受けるというのは、それだけその集落が、獣害対策に欠陥を抱えているということに他ならないのです。

改善例 「つるもの野菜」の立体栽培  
キュウリと同じように支柱にネットを張り立体栽培を行うことで、圃場外結実を防止することができ、他の野菜類といっしょに柵で守ることが可能となります。

### 名張B群出没状況



### 名張A群出没状況

